

2025 年 9 月 17 日作成 Ver.1.1

《情報公開文書》

小児の手指熱傷瘢痕拘縮に対する再建

研究の概要

【背景】

熱傷は皮膚の治癒過程において収縮を伴うため、瘢痕拘縮として突っ張りを生じます。特に手指に瘢痕拘縮が発生すると関節の動きが制限され、機能障害の大きな要因となります。小児では関節機能が未成熟であるため、瘢痕拘縮がより強く出現しやすい傾向があります。さらに、治療においては成長・発育を考慮しつつ機能改善を図る必要があるため、その対応は極めて困難です。

【目的】

当施設における過去 24 年間の小児手部熱傷による瘢痕拘縮症例を対象に、再建手術の治療経過を後ろ向きに調査し、その特徴を明らかにするとともに、最適な再建手術方法について検討することを目的としています。

【意義】

小児の手熱傷瘢痕拘縮に対して長期的な結果を踏まえた最適な再建方法を示すことができます。

【方法】

カルテ情報と臨床写真の情報を元に調査します。

対象となる患者さん

1998 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までに長崎大学病院形成外科で手術を受けた小児の手指熱傷瘢痕拘縮を対象とします。小児は 15 歳未満です。他院ですでに手術を受けた患者さんは除かれます。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・年齢、性別
- ・初期熱傷に関する情報(受傷日、受傷機転、治療法)
- ・再建手術に関する情報(再建を行った日、部位、術式、手術回数)
- ・再建後の手指機能(皮膚のつっぱり、指の動かしにくさ、皮膚の色調や硬さ、見た目など)
- ・再建で植皮を行った場合の採皮部

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご

連絡ください。	
外部への情報の提供について	
なし	
情報の利用開始予定日	
本研究は研究機関長の許可日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2026 年 12 月 31 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属:長崎大学病院 形成外科 氏名:東 晃史 住所:長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話:095(819)7323
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止】 長崎大学病院 形成外科 東 晃史 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話:095(819)7323 FAX 095(819)7330	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 苦情相談窓口:医療相談室 095(819)7200 受付時間 :月～金 8:30～17:00(祝・祭日を除く)	